

両社を象徴する配色デザイン

【神奈川】萬運輸のデザインで塗り分けられた2台目として導入された本車は「物流の未来」に込められた思いをつなげていく「使命」「ライフライン」など、ト

2台目として導入

「Essential worker」人々

の想いをつなげていく「使命」「ライフライン」など、ト

リフト荷役に関する安全6箇条が書かれており、荷役事故の防止を啓発する役割

を果たす。仙台配送との中継輸送は今年2月からスタート。神奈川県と宮城県をつなぐ中継地点のトラックステーションやサービ

月26日、新しいトラックの納車式を執り行った。今回導入されたのは、同社と仙台配送（尾上寿昭社長、宮城県仙台市宮城野区）との中継輸送に使用される車両のひとつ。同社では、仙台配送との中継輸送を始めるにあたり、オリジナルデザインを施した専用車両を用意。先にデビューを飾った1号車は、左右のボディのデザイン、キャビンの色を2社

側を萬運輸のコーポレートカラーである青、もう片側を仙台配送のコーポレートカラーである緑をベースとして採用。両社のコーポ

会的使命をテーマとしたキーワードが並ぶ。

して採用した。あおりの内側には現場で提唱されるフォーク

ドライバーがトラックを乗り換え、中継を行う新しい試みで、配送の効率化やドライバーの労働環境改善を目的としている。労働時間の短縮については、目的であった日帰り運行を実現しているという。専用車両は2県の物流を結ぶ架け橋として活躍する。



中継車両2台目納車式の様子

こちらのデザインは同社が所属する神ト協（吉田修一会長）の広報物で使用されているもの。感銘と共感を得た東海林社長が協会の許可を得て、トラックのデザインと



（田川侑史）